

# 講談先生

坂口安吾

青空文庫



僕は天性模倣癖旺盛で、忽ち人の感化を受けてしまう。だから、人の影響はのべつ受けてばかりいて、数えあげればキリがない。けれども、この人には負けたくない、というような敵意を持つ場合もあるもので、この人の作品を読むと惹きこまれるから、もう読むまいと決心するようなこともあった。これが本当の影響を与えた人かも知れないが、こういう本当の書齋の中へは他人を入れたくないから、僕は語らない。

僕は今書いている歴史小説に、かなり多く「講談」から学んだ技法をとりいれている。講談の技法を小説にとりいれたら、と考

えたのは十年ぐらい昔からのことで、それは、フランス・写実派の技法が、僕の観念とどこかしら食い違ふところから、なんとなく心を惹かれ始めたのである。

写実、つまり、文字で描くということは、トリビヤリズムに堕し易く、思うことを中心を逸することが多い。小説は元来「語る」べきもので、第一に、そう考えた。語るように書く、というのは当然の話だけれども、僕の言うのは別の意味で、「講談」のように、と云うことだ。講談は語る人の性格があんまり出ない。フランス風の写実は、語り手の性格が出すぎて、事物の実体をくらし易いと思つた。

近頃の例で言えば何々参謀談という作戦談のようなものがそれ

で、あそこにも語る人の性格は失われ、事実そのものが物語るよ  
うな力になっている。

僕がこのことに具体的に気がついたのはスタンダールの小説を  
読んだときで、スタンダールが、いわば、外国的講談口調の語り  
手なのである。スタンダールは描写や説明ということをやらな  
い。

日本の講談には語り手の性格がないように、語られている人物  
にも性格がない。善玉悪玉の型があるばかりである。これは演者  
の教養や観点が固定しているからで、こういう最悪の欠点は学ぶ  
必要がないけれども、然し、之を逆に言うと、スタンダールも型  
だけしか書いていないのだ。

だが、スタンダードは常に創作し、進歩する。新らしい型が生れている。之だけが講談と違う。尤も、これ一つ違うだけで、月とスツポンの違いになる。

講談それ自体は馬鹿らしいものだけでも、我々は、どこから何を学びとつても、値打には変りがない。

講談は自分が歴史を見てきたように語っている。「まことに困った奴でございます」とか「こう言いながら蔭で赤い舌をペロリと出しました」などと実に心易いもので、私がちゃんと見てきたのだから、文句は言わずに、信用しなさい、という立前なのである。

小説の技法に大切なのは、事実性、説得力というもので、之に

は色々の技術がある。或いは作者の感傷に托して事実性を維持しようとしたり、こくめいな描写によつて実感を盛り上げようしたり、様々だ。各、作者その人の身についた技法があるから、良し悪しは一概に言われぬことで、自分の方法を身につけることが第一であろう。

僕が講談の方法を面白いと思つたのは、之又僕流の考え方で、僕はそれで良いのだと思つている。

講談の語り方、私が見てきたことだから信用しなさい、という語り方によると、第一、目が物が本質から離れず、小さなことに意を用いる必要がないという、大變手数省略があり、この省略は、手数を省くばかりでなく、テーマをはつきりさせる。

我々に必要なのは語り方ではなくて、何事を語ったか、ということであるが、語り方がなければ、語られる物はなく、語り方が変れば、語られる物も変る。語っているようにしか考えられず、又、事物は在り得ない。小説の实在性というものには、それだけの絶対性があるのである。

小説の技法などというものは、言い現わし難いもので、自ら会得する以外に仕方がない。小説家は、常に小説の中で全てを語りつくすべきもので、僕が今、講談に就て語ったことも、意をつくしてはいないし、又、つくそうとも思っていない。ただ、講談の口調をややとりいれて小説を書いているのは本当だが、講談とい

うものを特別意識しているわけでもないのである。ただ、講談という言葉を一つとりあげたから、こんな風な文章になっただけの話である。この小説は、もう三カ月ぐらいで出来上ります。



# 青空文庫情報

底本：「坂口安吾選集 第五卷小説5」講談社

1982（昭和57）年6月12日第1刷発行

底本の親本：「現代文学 第六卷第三号」

1943（昭和18）年2月28日

初出：「現代文学 第六卷第三号」

1943（昭和18）年2月28日

入力：高田農業高校生産技術科流通経済コース

校正：小林繁雄

2006年7月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 講談先生

坂口安吾

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>